



shibokusanpou

一隅を照らそう
9月号

332号
毎月28日発行



はぜらん

折りふしのはな

昨日ここに咲いてた筈なのに：
朝一生懸命素しても
見あたらず

ガ・ン・ダ・ー・ラ紀行の思・い・出
住職 中島 有淳

一九八九年二月、インド・パキスタン・ガ・ン・ダ・ー・ラを訪れる機会に恵まれました。天台宗の青年僧による十二日間のツアード、大変強行なスケジュールでしたが、充実の日々がありました。

仏教の四大仏跡というのがあります。仏陀(釈尊)のルンビニ公園での生誕。ブッダガヤの菩提樹下の悟り。サルナート近郊の鹿野苑の初めての説法。そしてクシナガラの涅槃の地であります。

これは仏教徒であれば憧れの地でありますが、いわば遺跡であり、風を感じ、往時を偲ぶことに意味があります。

その時はガ・ン・ダ・ー・ラの仏教芸術に触れる旅でした。インドで涅槃(悟り)を獲得した仏陀は、決してそれまで人間像で表現されることはありませんでした。しかしガ・ン・ダ・ー・ラ芸術は仏陀を偉大な人間として、身近に表現したところに大きな特色があります。その芸術の目的は仏陀の後継者に仏教を伝達することにありました。BC一世紀からAD八世紀頃までがガ・ン・ダ・ー・ラ芸術が大きく花咲いた頃といわれます。

ガ・ン・ダ・ー・ラは本来的にはパキスタンの北西の地域でインダス河の西側、ペシャワルとスワットを含むペシャワル渓谷を指しています。この地域は快適な気候と美しい河川に恵まれています。「ガ・ン・ダ・ー・ラ」という名称はアーリア族の一番古い書物『リグ・ヴェーダ』に始めて見られます。そこには高品質のウールについても記され、現在でもペルシャ絨毯は有名です。

又、中国の巡礼者玄奘三蔵は、インダスの東にまでその王国が広がり、タキシラは強力な教育の中心地で仏教が栄えていたと記しています。この地域はキャラバンルートでもあり、アフガニスタン、中国、中央アジアと西側の交易も密接で、他方インド大陸への関係は平野部を通して開かれ、極めて古くから東と西の芸術と政治、商業と宗教の交流が盛んでありました。

この時機、有名なのはギリシャ王メナンドロス(ミリングダ王)と仏教の僧侶ナーガセーナ(那先比丘)による問答であります。王はやがて仏教に改宗するのです。

またペシャワールに首都を造り帝国を築いたカニシカ王は、西に軍を進めインドの大半、西トルキスタン、アフガニスタン及び中央アジアにおいては、中国の漢王朝と衝突しました。

カニシカ王は仏教を崇敬し、彼の下、ガ・ン・ダ・ー・ラの芸術は頂点に達します。仏像は精緻で美しく人々を魅了し、また仏陀のコインなども鋳造されました。しかし、やがて十一世紀に入るとガ・ン・ダ・ー・ラ地方のイスラム化が進み、この地方を舞台とする古代歴史の偉大なドラマの幕は閉じられることになりました。

旅行中私達は有名なカイバル峠を望むアフガニスタンとの国境近くまで行きました。途中、道路の両側にはアフガニスタンからの難民キャンプが何キロにもわたって延々と続き、土壁で作つたその住居はとても劣悪で、不衛生で驚いたものです。国境には銃をもつた兵士が警固しており、私達はその先にある有名なバーミヤン大仏の石窟に想いを描きつつ、来た道を引き返しました。

*一〇〇一年、バーミヤン大仏はタリバンによって破壊されました。

行 事 案 內

○九月八日 午後二時
薬師如來大護摩供

○九月十二日 午後二時
智泉院法要日(於・日本橋茅場町)

○九月十五日(水) 年一回 午後二時
観音經讀誦法要(神木觀音堂)

○九月二十八日 午後二時
不動明王大護摩供

*毎朝六時の朝参り(公開)を再開しております
ご都合のよろしい時にはご一緒にどうぞ

せんそく平癒祈祷(非公開)

(マスクはご着用下さい)



●月例「止觀(坐禪)会」
午前九時三〇分 定員十名・申込順・五〇〇円
●第五回「二年かけて『法華經』を読む会」
午前十一時 定員十名・申込順・三〇〇円



梨むくや 甘き葉の刃を垂る、
風の日は風吹きすさぶ秋刀魚の値
家は皆杖に白髪の墓参り

正岡子規
芭蕉 波郷

合掌